

地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌

2017年5月 記念増刊号

Vol.34



京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center

旧：公立南丹病院



平成29年5月1日より、「公立南丹病院」は「京都中部総合医療センター」に名称変更します。新しい病院名は、京都市近郊に位置し、総合的な診療を行うことがイメージされやすく、住民の皆さんに親しみやすく職員のモチベーション向上につながるというコンセプトのもと公募し決定しました。

新しい病院のロゴマークは、Kyoto(京都)のKをモチーフに、1本の木は地域医療の中心的存在を、3枚の葉はそれぞれ生命、健康、信頼を表現するものです。今後も引き続き、地域医療へ貢献して参ります。

臨床研修指定病院 地域がん診療病院 救急告示病院
日本医療機能評価機構認定病院 へき地医療拠点病院
第二種感染症指定医療機関 地域周産期母子医療センター
京都府地域リハビリテーション支援センター
エイズ拠点病院 京都府難病医療協力病院
地域災害医療センター DMAT指定医療機関
認知症疾患医療センター

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地
TEL 0771-42-2510(代) FAX 0771-42-2096

<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





少子高齢化や人口減少といった課題や、国、地方の財政状況の逼迫等により我が国の医療、介護、福祉などの社会保障制度は大きな転換期に差し掛かっています。南丹地域においても、高齢化、過疎化が進む中で、将来に渡って医療・介護を始め、人々が生活し続けることが出来る環境を確保することは大変重要な課題となっております。

京都中部総合医療センターはこの地域の中核病院として、この課題に取り組むべく機能の充実、総合化を進めております。「それに向けての人材の確保のためにも名称変更を」との現場からの声により、このたび、亀岡市、南丹市、京丹波町の各議会のご承認を頂き、病院の名称を変えさせていただきました。今後とも、住民の皆様が安心してこの地域に住み続けていただけるよう、関係機関との連携をさらに強め地域の中核病院としての役割を果たしてまいりたいと思います。

国民健康保険南丹病院組合管理者 ききき としのり 佐々木 稔納



病院の位置と地域中核病院としての機能をより明確にあらわすため、このたび「京都中部総合医療センター」へ名称を変更することになりました。創設以来80年余にわたり、地域の皆様に信頼される病院として発展してまいりました本院は新たなステージを迎えます。「名は体を表す」と称されるよう、地域ニーズに一層応えるべく病院機能・内容の充実を図りますので、皆様のご支援をお願いいたします。

ふしき しんじ 総長 伏木 信次



このたび病院名を「京都中部総合医療センター」に変更させていただきます。新しい時代へ向けて地域を支える拠点病院として、地域連携・協調をさらに促進させて、皆様に最善の医療が提供できるように努力を続けていきます。また教育、研修に力を入れ、スタッフ皆が生きいきとやりがいを持って働ける職場づくりを目指します。当院が地域を支える総合医療センターへ変革していくことに、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、どうか宜しくお願い申し上げます。

たつみ てつや 院長 辰巳 哲也



病院名変更にあたり、多くの方々から新たな挑戦への賛同とともに、「南丹病院」あるいは「南丹」への強い思いを聞かせていただきました。「京都中部総合医療センター」として新たに出発するに当たり、これらの御意見も踏まえて、やはり変えて良かったといえる病院にしていかなければと思っております。

国民健康保険南丹病院組合副管理者兼事務局長 かわの かずお 川野 一男



看護部は、皆様のニーズに対応できるように日々看護の質の向上に取り組んでいます。京都府中部の総合病院としての役割を果たすため多種多様な社会の変化に対応できる看護部を目指していきます。そのためには看護師確保は直近の課題です。若い世代の人口減少の中ではありますが看護師の確保・定着に向けて一層努力していきます。

なかがわ はるみ 看護部長 中川 春美



看護部

地域にお住いの皆さんの身近な存在として看護スタッフが他職種と連携しながら健康をお守りします。

また、急性期から回復期、在宅復帰に向け幅広い経過に対応できる質の高い看護を提供し、より良い入院環境が保てるよう努めていきます。これからも成長し続ける看護部を目指して励んでまいります。よろしくお願いいたします。



薬剤部

当院の薬剤師は、各種認定などの資格を持ち病院全体に係るチーム医療に積極的に参画し、質の高い医療の提供に努めています。

薬のエキスパートとして各方面と連携しながら、患者さん一人ひとりに適した薬物療法を提供することを心がけ、信頼される薬剤師になれるよう一層努めますのでよろしくお願いいたします。



リハビリテーション科

南丹医療圏のニーズに対応すべく平成27年12月に回復期リハビリテーション病棟を、平成28年8月には地域包括ケア病棟を開設しました。総合医療センターの名にふさわしい職務の遂行をリハビリテーション科職員は肝に銘じ住民の皆さまが住み慣れたこの地域でいきいきと暮らせるように、今後も努力して参ります。



栄養科

からだを作る基となる栄養（食物）は健康・治療・在宅介護の場面でも大変重要な責任を担わせていただいております。

栄養（食物）の病院唯一のプロフェッショナルとして、安全で美味しい治療食の提供、栄養相談などを行っております。また地域医療においても予防栄養・在宅栄養にも貢献させていただきます。



臨床工学科

当医療圏にて高度先進医療や先端医療を提供すべく医療機器領域のスペシャリストとして、各専門分野での研修や各種認定技術の取得に取り組んでいます。また医師や医療スタッフと協力し、地域の皆様に安心・安全な医療を提供できますよう、より一層努力致します。



臨床検査科

早期診断・治療のために、迅速かつ正確に患者さんの臨床検査データを提供しています。外来や入院の採血業務をはじめ、生理検査では患者さんとのコミュニケーションを図り、落ち着いて検査を受けていただき正確な生体情報を取り出せるように、病理検査では最新技術を導入し、診断の結果を正確に提供し、地域の皆様の早期治療に貢献します。



放射線科

MRI検査と放射線治療で最新の装置と技術を取り入れ、CT検査、核医学検査、乳腺撮影検査、骨密度検査など、数多くの検査を実施しています。

総合医療センターとなり、これまでよりさらに検査の質を高め充実した検査とすることで、患者さんに安心して検査を受けていただくことを実践していきます。スタッフ一同、精進していきますのでよろしくお願いいたします。



医事課

医事課は、事務局の中で一番患者さんと接する機会の多い部署になります。毎日800人以上の外来患者さんが来られ、総合受付や窓口会計などご利用いただいております。

また、正面玄関入口付近に総合案内や患者支援窓口などの設置をしておりますので、お気軽にお声かけください。今後も患者サービスの向上を図って参りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



京都中部総合医療センターの取り組み

がん診療

南丹二次医療圏のがん診療における実質的な拠点として「地域がん診療病院」の指定を受けています。手術治療はもとより、化学療法、放射線治療を効果的に組み合わせた集学的治療を提供する体制が整備され緩和ケアへの対応も充実しております。全国レベルの標準的治療を地域の皆様へご提供できるよう、診療に関わる職員全員でこれからも日々研鑽して参ります。

地域医療

地域住民の皆さんへ最適な医療の提供が行えるよう、地域の医療機関や福祉施設、在宅介護支援機関などとの連携の強化に努めています。南丹医療圏の総合病院、公的基幹病院として、地域医療・福祉・介護従事者の方々に向けての研修会の実施、地域の医療機関からの検査（胃カメラ・CT・MRなど）依頼への対応、開放型病床の利用促進など、地域医療の発展に取り組んで参ります。

周産期医療

外来で慎重に経過観察しながら、自然な形での安全なお産を目指しています。夜間でも常に1名の当直医と緊急帝王切開などの緊急時に対応する1名が控え、異常を認めた場合には、小児科医師も立ち会います。京都府の地域周産期母子医療センターとして重症合併症のある妊婦さんや緊急手術に対応しています。

救急医療

内科系、外科系、小児科、産婦人科の4人の当直医により24時間の救急対応を行なっています。地域の医療機関からの紹介も多く、緊急手術のための各科オンコールを備えて、ベッドが満床に近くても救急車を断らないようにしています。歩いて来られる患者さんに対しても、救急トリアージを採り入れて、できるだけ速やかに看護師が対応するなどの効果をあげています。

小児医療

小児外科・産科など院内の各科とも連携し幅広い医療を行っています。地域医療機関からの紹介患者はほぼ全例受け入れるとともに、夜間・休日を含め連日単科当直体制で小児救急に取り組み、時間外診療を行っています。外来診療は地域の皆様に質の高い医療を提供するため腎臓内科、代謝内分分泌内科、循環器内科、神経内科といった専門外来を設けています。

認知症医療

高齢化社会への移行に伴い、認知症はますます増加する傾向にあります。当院は「認知症疾患医療センター」外来にて専門医による早期診断と治療に、病棟でも身体合併症で入院された認知症患者さんに対して専門研修を修了した看護スタッフを中心に認知症ケアを提供しています。また「地域包括支援センター」との連携で、地域の皆さんに対するご相談や啓発活動にも力を入れています。

災害医療

当院は南丹医療圏の唯一の災害拠点病院として、災害時に対応できるDMAT（災害派遣医療チーム）を有しています。平成7年の阪神淡路大震災をきっかけに翌年より全国に制定された災害拠点病院のひとつとして活動しています。東日本大震災や熊本地震の際も出動して活動しました。現在当院には広域災害に対応した厚生労働省に属する日本DMAT隊員12名と京都府に属する京都DMAT隊員9名が登録されています。

訪問看護ステーション なんとん

ご利用者並びにご家族や他職種の方々のご支援をいただきながら、平成28年4月の開設から無事に一年を過ごすことが出来ました。この一年で、医療ケアをご自宅で継続される方が多いことを実感しています。その方々の療養生活を看護で支えることは、訪問看護師の大きな役割と考えております。名称変更に伴い気持ちも改め、京都中部総合医療センターと協力し、地域に貢献していきたいと思っております。

